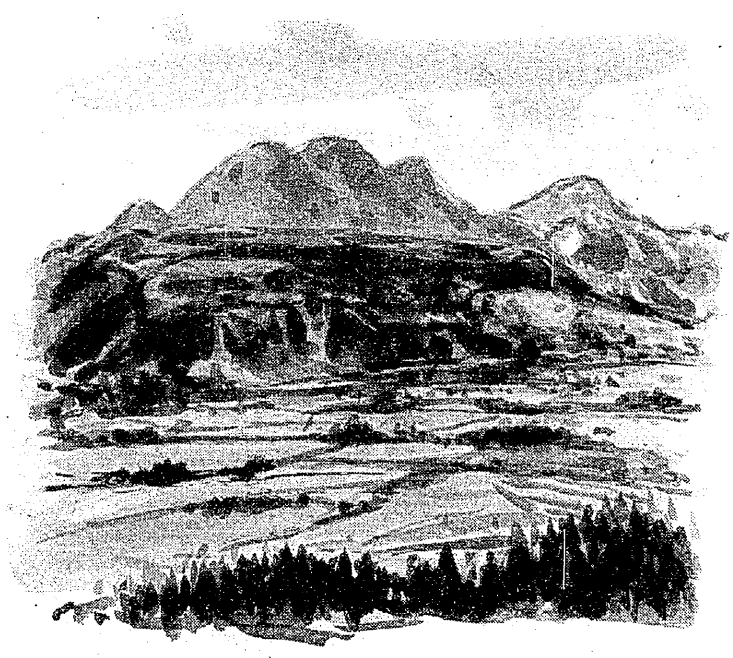
山のある風景



九重三股山・飯田高原

画　姉川良男

九重山群の北麓に広がる飯田高原は、東西南北各八キロメートルにおよぶ大草原で、緑がすばらしい。また、三俣山の特異な山容をはじめ巨大な九重連山の陰影は格別で、山裾や渓流沿いに湧く素朴な温泉群も人気がある。

くらしと統計

家事の主役は子供　主婦が病気になったら

家庭の主婦が病気になった時に、家事の主役になるのは子どもたち――武田薬品工業がまとめたアンケート調査「主婦の健康自己管理」の結果です。

この一年間に医師にかかった人は三人に二人。回数は平均三・九回で、寝込んだ日数は平均二・一日。

寝込んだ時に困ること（複数回答）は「食事の支度ができない」（七三％）、「掃除・洗濯ができない」（六一％）、「買い物に行けない」（五三％）が上位三つ。夫が病気でもないのに「夫の世話ができない」と悩む人が三三％。「夫の機嫌が悪くなる」が七％。「仕事を休むこと」が四人に一人いるのも、主婦が働いている時代の反映。

寝込んでいる時の家事は「夫がする」（四四％）より「子どもがする」（五四％）のほうが多数。「早く帰ってほしい」と夫に望む妻が四六％。せめて食事ぐらい作って下さい、パパ。

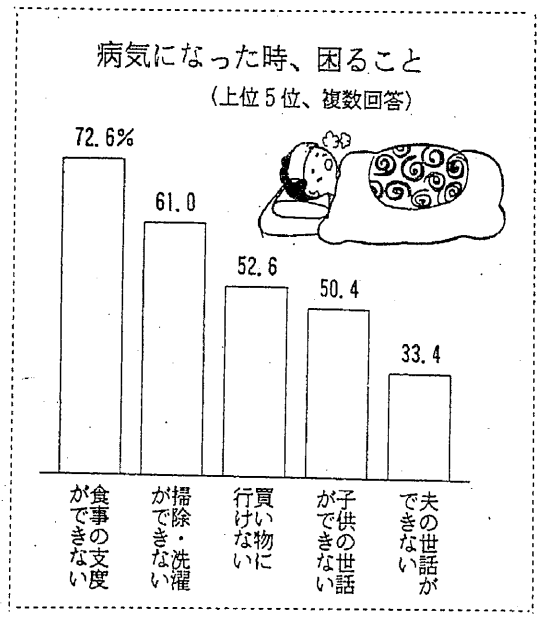
ひとくち情報

主婦の健康診断

家族健康に気を配る主婦も自分のことになるとほうりがち。武田薬品工業のアンケート調査によると、この一年間に健康診断を受けた主婦は全体の半分。専業主婦は四五％で、有職主婦（七〇％）よりかなり低率。有職主婦の健康診断は血圧、尿検査、問診などが中心で、主婦の不安の多い子宮がんや乳がん検査は少数。一方、専業主婦の場合は、地方自治体でおこなっている「がん検診」が多く、胸部レントゲンや心電図などをふくむトータルな検診を受けている人は少数です。

お宅の食事は

主婦が病気になった時に最も困るのは一家の食事です。調理済み食品や市販の総菜に頼ることになりますが、調理に時間をかけるほど栄養素摂取量が多いという傾向が出ています。困難でも、できるだけ多くの食品を摂る努力も健康を維持する秘訣です。



三池主婦会結成35周年記念の集い

三池主婦会が結成されて今年は三十五周年を迎えます。先輩の血のにじむような努力で結成され、人間らしく生きる社会をめざして家族ぐるみのたたかいを進めてきた歴史にまなび、心を新たにしてさらに運動を進めましょう。

と　き　5月22日（日）　10時～15時
ところ　荒尾労働会館ホール（荒尾市西原町）
第1部　あいさつと講演　10時～12時30分
第2部　懇親交流会　12時30分～15時

姿見

合理化提案に思う

大牟田ブロック　一会員

ゴールデンウイークも過ぎましたが、行楽地での人出を伝えるニュースを見ても、今年はそれどころではなく、浮いた気持ちになれません。

三井石炭は、昨年に続いて七百三十人もの大量の人べらし合理化を提案してきました。人員削減の方法は、希望退職を募り、予定人員に満たない時は五十二歳以上の人を退職させるというものです。

主人は来年、定年退職を迎える予定です。炭鉱で働く人、そして家族にとっても、きびしい労働条件の中で働いてきただけに、無事に定年退職を迎えることを祈るような気持ちで待っています。

人生八十年といわれる時代になっています。定年の延長すらおこなわれているのに、「生き残るためだという合理化に「はい、そうですか」といって応じるわけにはいきません。本当に生首を切られる思いです。

五十二歳といえば、あと三年しかないと思う人もいるかもしれませんが、この三年間が大切な期間だし、もし退職にでもなれば失うものばかり多くて、きびしい生活が待っているのです。

海外炭が安いから、国内炭は掘っても売れないとかいって、貯炭の山を宣伝の材料に使って労働者にだけ犠牲を強いるのです。

日本でただ一つのエネルギー資源を保護しようとせず、石炭をつぶし、農業もつぶしてしまうような自民党の政策に、不安と怒りをだれでもが持っていると思います。

昨年の合理化で希望退職された方の再就職は二割程度だということです。会社の就職あっせんは口先だけで責任はもたないのです。

大牟田・荒尾の街には失業者が溢れ、「再開発、活性化」のうたい文句が空々しく聞こえます。

ここで歯止めをかけなければ大変なことになるでしょう。世論に訴えて、白紙撤回までがんばろうと家庭でも話をしています。

クつのまちがい

＜問題＞下の絵は上と7カ所のまちがいがあります。どこでしょう。（印刷のよごれやかすれはまちがいにははいりません）答えは3面に。

出題・西山　進

NEWSなんのこと？

牛肉・オレンジ交渉が決裂

牛肉・オレンジの自由化をめぐる日米交渉がついに決裂し、ガット（関税貿易一般協定）の場に持ち込まれた。話し合いが着かなくて裁判所の裁定になったように見えるけれど、問題の正体はかなり違うんだ。

竹下首相はすでに一月訪米の時、牛肉・オレンジの自由化を約束しているんで、勝負はすでに決まっている。だが、簡単に負けたんでは、日本の農家にいいわけが立たない。そこで、土俵を割る前に徳俵でふんばってみせる、というのがシナリオなんだ。自由化そのものの是非ではなく、自由化を前提とした課徴金（輸入品に課す付加税）という〝条件闘争〟にしていることでもわかるだろう。

それでも〝決裂〟したのは、アメリカの態度があまりにも理不尽で、とてもこのまま土俵を割るわけにはいかなくなったからなんだね。

大体、日本はもう世界第一の農産物輸入大国なんだよ。しかもその三分の一はアメリカからの輸入だ。日本の食糧自給率は三一％（穀物）に落ち、先進諸国の中では最低になっている。日本は「閉鎖的」だとか「世界から孤立している」なんて非難されるいわれはないんだ。

それにもかかわらずアメリカは、残った農産物を全部自由化せよと迫り、そのうち十二品目をガットに提訴し、日本政府はすでに受諾してしまっている。アメリカ自身が、その十二品目のうち六品目は輸入制限しているんだから、手前勝手すぎるよ。

自民党政府は、ガットでの協議で〝刀折れ矢尽きた〟という格好にして、農民に自由化を押し付けるつもりなんだろうがね。ガットは別に裁判所ではないんだし、これであきらめなければならないわけではない。政府が本当にがんばるというのなら、ウッチャリをやればいいんだ。

この自由化を受け入れれば、日本の畜産は大打撃を受け、その結果、牛肉の自給率は現在の四分の一の一八％に落ちてしまうだろうといわれている。

自国の農業を守り、発展させることをもっと真剣に考えなければ、日本人は胃袋まで外国に支配されてしまうよ。

時のことば

ガット・パネル

ガット（関税貿易一般協定）理事会が設置する加盟国間の紛争処理小委員会のこと。牛肉・オレンジの自由化をめぐる日米間の二国間交渉が決裂したため五月四日の理事会で、米国およびオーストラリアの提訴を受けてこの問題でのパネル設置が決まり、年内には裁定が出ます。

パネルは三ないし五の非当事国で構成、案件を審理した上で裁定を下しますが、裁判の判決のような強制力はなく、裁定を受け入れるか否かは、あくまで被提訴国の主権の問題。竹下内閣の姿勢が問われます。